

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社花の器	代表者	檜山 真	法人・事業所の特徴	鹿沼市南部の田園地帯の一角にグループホームと併設で、平成24年4月に設立。「あなたらしく」あり続けるために、介護者として必要な力量を兼ね備えられるよう成長を目指すことを、理念としています。常に真摯に向き合い、要望に対して最大限応えることを基本とし、地域に輪を広げながら家族と共に「あなた」を支えていく事業所です。
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設花の器	管理者	檜山 慈		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	1人	1人	人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	自己評価の「次回までの具体的な改善計画」を達成できるよう、常に意識して介護にあたる。	新規利用者の方と積極的にコミュニケーションを取り情報を得よう努めた。	積極的にコミュニケーションを取り情報収集に努めている。情報を共有して利用者に対応している。出ていない点を反省し次の課題として取り組んでいる点は良い。	自己評価の「次回までの具体的な改善計画」を達成できるよう、目標を立て、達成度合いを測る仕組みを作る。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染予防対策は継続しつつ、居心地良く過ごしていただくためにテーブルの配置、転倒等の事故を防止するための配慮に努める。	フロアを広く使うための模様替えをし、各テーブルにはアクリル板を設置するなど感染予防に努めた。また、転倒防止にベッドの配置や手すりの設置の他に、センサーを置き動きに応じて素早く介助にあたった。	いつ伺ってもスタッフの皆さんが笑顔で丁寧に対応してくれている。会議で伺った際に施設内が良い雰囲気であることが分かる。花が植えられており明るい印象がある。常にクーラーや暖房がついていて活動しやすい。	利用者の個性や相性などを考慮し、落ち着いた生活できる環境と活動的に過ごせる場の提供に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	感染対策を取りながらマイチャレンジ(中学生の職場体験)受け入れなど世代間交流を再開する。	中学生のマイチャレンジを受けて交流をすることが出来た。日々の生活の中で楽しみを見出し、生活の様子は「咲くやこの花」を自治会の回覧版とご家族への配布し、Facebookでも発信しお知らせした。	利用先を聞かれ「花の器を利用している。」と答えると「あそこは良いところだ。」と言ってもらえる。中学生の職場体験も再開でき、地元の行事参加などから地域住民に認知されている。	感染対策を取りながらマイチャレンジ(中学生の職場体験)の受け入れや、地域の行事へ積極的に参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	訪問による支援件数が増えてきているので、自宅における生活が充実したものになるよう支援する。	訪問件数が増えたため自宅での生活支援も、外食や買い物の同行など個々のニーズに合った内容にしていった。地域の方々との関係も良好であり、庭に咲くお花をいただいたり、農家の方から野菜をいただくことも多かつた。	感染対策をしながら少しずつ地域との交流や行事に参加でき良かった。広報誌でも喜びの顔が見える。	外出支援を増やし自宅における生活が充実したものになるよう支援する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	委員の皆様からのご意見を介護スタッフに伝達し、日々の介護に生かせるようにする。	委員の皆様からご意見・ご助言は毎月の会議で報告した。防災対策や地域の行事参加につながった。	生活を豊かなものにしていこうとする取り組みを知ることが出来た。利用者の自宅での生活について夏場の脱水対策や独居世帯への関りなど検討することが出来た。	委員の皆様からのご意見を介護スタッフに伝達し、日々の介護に生かせるようぬする。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練に参加する。	非常時に備えた食糧等の備蓄も行った。新型コロナウイルスにより、マスク、消毒液、手袋等衛生用品も十分備蓄が出来た。避難先の医王寺の現地確認と清州コミセンとの協定書も交わすことが出来た。	防災・災害対策は施設にとって一番心配される問題である。中でも避難方法で人員や車が大変だと思える。	夜勤者全員を対象とした夜間の避難訓練を実施する。医王寺に利用者を車に乗せてに難訓練を実施する。